

第3次佐賀市 環境基本計画

【概要版(案)】

2025～2034年度

佐賀市



第3次佐賀市環境基本計画とは？

佐賀市環境基本計画は、佐賀市環境基本条例第9条に基づく環境の保全等に関する基本的な計画です。

佐賀市総合計画に定められた将来像“佐賀らしさでみんなが上を向くまち”を、環境面から実現することを目指しています。

本計画の推進にあたっては、深刻化・多様化する環境問題へ対応するため、今回新たにSDGsや脱炭素の視点を取り入れ、社会情勢の変化に対応した環境保全等の施策を総合的かつ計画的に推進します。

本計画が目指す環境将来像

みんなで創り育む トンボ舞う みどり豊かなまち さが



■ 計画期間

2025年度(令和7年度)から2034年度(令和16年度)までの10年間です。社会状況の変化に応じて、計画の進行管理と計画内容の見直しを随時行います。

このんは、佐賀市の豊かなみどりと水辺をモチーフにしたキャラクターです。これから市民のみなさんに「一緒に行動しよう!」と呼びかけていきます。

名前の由来 CO₂の「CO(こ)」、ないという意味の「non(のん)」、一緒にという意味の「con」、木の葉の「この」を組み合わせた名前で、地球温暖化の主な原因であるCO₂排出量をみんなで削減していくという思いが込められています。

ゼロカーボンシティさがし
キャラクター



計画改定にあたっての視点

地球
温暖化

① ゼロカーボンシティさがし表明

地球温暖化の進行を防止するため、市は 2020 年(令和 2 年)に「ゼロカーボンシティさがし」を表明しました。2050 年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目指し、脱炭素への取組を推進します。

資源・ごみ

② 循環経済(サーキュラーエコノミー)への転換

大量生産・大量消費・大量廃棄の一方通行型の経済社会活動(リニアエコノミー)から、持続可能な形で資源を利用する循環経済(サーキュラーエコノミー)への転換が求められています。3Rの取組に加え、資源の効率的・循環的な利用を図りながら、新たな付加価値を生み出すシステムを構築します。

プラスチック

③ 海洋プラスチック問題とプラスチック資源循環の取組

プラスチックごみによる海洋汚染が世界的な課題となっています。2022 年(令和 4 年)4 月に施行された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」を踏まえ、プラスチックごみの排出を抑制し、回収したプラスチックの資源循環利用(3R+Renewable)を目指します。

生きもの

④ 生物多様性の保全(ネイチャーポジティブ、30by30 目標)と外来生物等への対策

生物多様性の損失を止め反転させる「ネイチャーポジティブ」や、2030 年(令和 12 年)までに陸と海の 30%以上を健全な生態系として効果的に保存しようとする新たな世界目標(30by30)が提唱されました。佐賀特有の生態系を保全し、市内に定着・移入してきた外来生物についても対策を強化します。

推進体制と進行管理

■ 計画推進の主体

本計画を推進していくためには、行政・事業者・市民の各主体がそれぞれの役割と責任を持って、環境保全のために求められる行動を行う必要があります。



■ 進行管理

各施策の進捗管理を適正に行うために、本計画に基づく施策や事業について PDCA サイクル活用による進行管理を行います。「計画(Plan)」→「実施と運用(Do)」→「点検と評価(Check)」→「見直し(Action)」の手順に沿って計画を推進します。

成果指標と目標値

指標		基準値 (2023 年度)	目標値 (2024 年度)
温室効果ガス排出量削減率(2013 年度比)		41%削減※ (2021 年度)現状値	60%削減※
1人1日当たりごみ排出量		936g	855g
1人1日当たり収集燃えるごみ排出量		456g	416g
リサイクル率		20.9%	22%以上
市街地のみどりが増えて景観が良くなったと感じる市民の割合		55.7%	61.2%
市民1人当たりの都市公園面積		8.1 m ²	8.4 m ²
下水道接続率		93.2%	95.8%
環境基準 達成状況	水質 (BOD・COD)	一部未達成	達成
	大気	達成	達成
	騒音	達成	達成

※統計データの更新に伴い数値が変更になる可能性があります。

みんなで創り育む トンボ舞う



目標の実現に向

1 脱炭素が暮らしや地域に浸透しているまち

目指す姿

2050年「ゼロカーボンシティさがし」の実現に向け、家庭や事業所における省エネ対策や再生可能エネルギー利用、脱炭素技術の積極的な導入等の取組を浸透させ、快適な暮らしと脱炭素を両立したまちを目指します。



1-1 脱炭素型ライフスタイルの推進

- 市民・事業者の脱炭素につながる行動の推進
- 低炭素型の交通環境整備

1-2 脱炭素経営の推進・脱炭素イノベーションの創出

- 脱炭素経営の推進
- 先進技術の創出

1-3 再生可能エネルギーの普及促進

- 地域への再生可能エネルギー等の普及促進

1-4 気候変動への適応

- 県及び事業者等と連携した適応策の展開



太陽光発電(市役所本庁舎)

2 持続可能な循環の仕組みで、成長し続けるまち

目指す姿

市民や事業者が自ら進んで3Rに取り組み、大量生産・大量消費型の社会から、環境に配慮した持続可能な資源循環型のまちづくりを目指します。



2-1 3Rの推進

- 3Rの推進
- 市民・事業者の意識啓発及び取組
- 食品ロス削減対策

2-2 循環経済システムの構築

- プラスチックの資源循環の促進
- バイオマスの有効利用
- 廃棄物等エネルギーの活用促進

2-3 ごみの適正処理

- 処理施設の安定的運用及び適正な収集体制の維持

人材育成・行動

自主的に環境活動に取り組む人材を育成するため、様々な環境学習ツールを活用し、未来また、地域や企業等と連携しながら、自然に親しむ機会の創出、ICTを活用した情報発信を行い、

境将来像

みどり豊かなまち さが



けた施策の展開

3 水とみどりにあふれ、心地よさを実感できるまち

目指す姿

本市の豊かな水とみどり、希少な生態系が残る個性的な自然環境は、私たちの暮らしに安らぎや癒しを与える存在であるとともに、魅力的な景観の形成、人々の憩いの場の提供など様々な役割を果たしています。

今後も、佐賀の経済・社会を支える基盤である自然と共生した快適なまちづくりを目指します。



3-1 清らかな水辺の確保

- 水辺空間の整備 ○ 河川等の機能保全及び清掃活動の促進

3-2 豊かなみどりの確保

- 森林の整備と保全 ○ 農用地の確保 ○ 緑地の創造と保全

3-3 生物多様性の保全

- 健全な生態系の保全 ○ 自然観光資源の保全と活用 ○ 外来生物対策

3-4 自然環境と調和したまちづくり

- 都市景観の形成 ○ 歴史文化的な環境の保全



「トンボ王国・さが」づくりの取組
（「さがの生きものさがし」の様子）

4 安全で快適な生活環境のまち

目指す姿

市民が日常生活を豊かで快適に過ごすために、空気がおいしく、身近な水やみどりなどの自然を感じられる、安心・安全で衛生的な地域環境を守り、育てていくことを目指します。



4-1 身近な生活環境の保全

- 生活に密着した環境問題の改善 ○ 市民清掃活動の推進と支援 ○ 安全な水道水の安定供給

4-2 生活排水の対策

- 下水・し尿の処理

4-3 地域環境の保全

- 公害・化学物質等発生の防止

変容の促進

を担う幼児・児童・生徒等への環境教育を推進します。

子どもから大人まであらゆるライフステージに合わせた継続的で多様な環境学習機会の充実を図ります。

身近なことから
はじめよう

わたしたちにできること

1 脱炭素が暮らしや地域に浸透しているまち

家庭や職場での環境にやさしい行動の積み重ねが、CO₂の削減につながる

徒歩や自転車、公共交通機関を利用し、車を運転するときはエコドライブを心がける



太陽光発電や蓄電池などを設置する



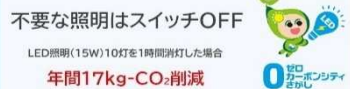
宅配ボックスの設置や置き配を利用し、再配達を減らす



節電や省エネ家電の購入など日常の省エネ行動を積極的に実践する



温室効果ガスの「見える化」を行い、意識的に温室効果ガスを削減する



次世代自動車やカーシェアリングを利用する



2 持続可能な循環の仕組みで、成長し続けるまち

1人1日あたりのごみ排出量は936g！ どう減らす？

ごみを減らし、資源物は分別して出す



外出時は 3010 運動*で食べ切りを行い、食品ロスを削減する



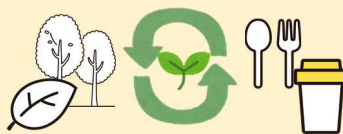
家庭で眠っている未開封の食品をフードバンクに寄付する



マイバッグやマイボトルを利用し、使い捨てプラスチックの利用を減らす



商品購入時は、リサイクル素材やバイオマス素材などを使った環境にやさしい商品を選ぶ



服を長く着る、リユースファッションを楽しむなどのサステナブルファッションを実践する



*3010(さんまるいちまる)運動

宴会時の最初の30分間と終了前の10分間は料理を楽しみ、食品ロスを削減する運動のこと。

3 水とみどりにあふれ、心地よさを実感できるまち

佐賀の豊かな自然環境と魅力的なまちなみを未来の子どもたちへ

「地域の川の清掃」に参加するよう心がける



地域や家庭で花や樹木を育て、みどりあふれる心地よいまちにする



本市の多様な自然や生きものに関心を持ち、近場の自然と触れ合う活動をする



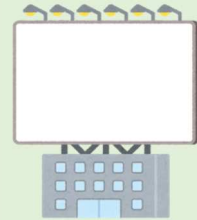
自然や環境がテーマのイベントや学習会などに参加する



もともと佐賀にいない生きものを、自然の中に置き放つたりしない



屋外広告物を設置する際は、周辺の景観に配慮する



4 安全で快適な生活環境のまち

きれいな水と空気があり、安心して快適に暮らせる生活環境を維持する

ペットのふんは必ず持ち帰るなど、飼育マナーを守る



自分が出したごみは、持ち帰ることを習慣化する



使用済み天ぷら油は下水に流さず、リサイクルに協力する



車を運転するときはエコドライブに努め、アイドリングや空ぶかしはしない



事業活動における排水による水質汚濁の防止に努める



大気汚染物質の排出の少ない低公害車などを導入する



環境将来像の実現に向けた主な取組

ポイント1 脱炭素 社会

温室効果ガス排出量を 2034 年度までに、**60%削減**を目指します
(※2013 年度比)

ゼロカーボンシティさがし推進パートナー制度

脱炭素社会の実現に資する取組を実施する事業者又は団体を「ゼロカーボンシティさがし推進パートナー」として認定し、事業者の表彰や脱炭素経営事例視察会の開催など、一緒になって脱炭素の取組を推進しています。



ポイント2 ごみ 資源

「捨てる暮らし」から「活かす暮らし」への転換

○ SAGA タベスケ

食品ロスの削減を目的とし、売れ残りなどの食品をお手頃価格で出品する協力店と住民をつなぐ、フードシェアリングサービスを実施しています。

○ 高品質バイオディーゼル燃料(HiBD)の利用

使用済みの天ぷら油を回収・精製し、生まれ変わった高品質バイオディーゼル燃料は、市営バスやごみ収集車の燃料として使用されています。

○ プラスチックの資源循環への取組

家庭から出る使用済みプラスチックの拠点回収を実施し、資源として循環させるための検討を進めています。



バイオディーゼル燃料を使用した市営バス

ポイント3 みどり 自然

佐賀の豊かな自然をみんなで育み、未来につなぐ

東よか干潟ラムサールクラブ

市内小中学生を対象とした「東よか干潟ラムサールクラブ」では、干潟の生きものや渡来する野鳥の観察、他のラムサール条約湿地で活動する子供たちとの交流を通じて、東よか干潟の価値や魅力を学び、その素晴らしさを多くの人に伝える未来のリーダーが育っています。



東よか干潟ラムサールクラブ

ポイント4 暮らし

安心・快適な生活環境のまち

佐賀市アダプトプログラム (さわやかマイタウン SAGA)

佐賀市をごみのない美しいまちとするため、アダプトプログラムに登録された団体や個人のみなさんが、身近な道路や公園等の公共の場所の環境美化に取り組まれています。



第3次佐賀市環境基本計画 概要版 2025 年 3 月 策定

編集・発行：〒840-8501 佐賀市栄町1番1号 佐賀市環境部環境政策課

TEL:0952-40-7201 / FAX:0952-26-5901

E-mail:kankyoseisaku@city.saga.lg.jp